

まるせっぷクリニック便り

JA 北海道厚生連
まるせっぷ厚生クリニック
TEL47-3131 FAX47-3134
北海道厚生連イメージキャラクター
コウセイくん



No. 20
令和2年3月号



春はヒグマに気を付けましょう！

もう少しで長い冬も終わり春がやってきますね！

ヒグマによる人身被害は、特に春と秋に多く発生しています。これは、春は山菜採り、秋はキノコ採りなど、人間が山野に出かける機会が多い季節であることに加え、ヒグマも春は冬眠明けのために、秋は冬眠を控えて、餌を求めてより活発に活動するため、人間とヒグマが遭遇する確率が高まることが原因と考えられています。ヒグマに出会わないためにヒグマについてまとめてみました！

ヒグマの一生

- ・1～2歳まで母親と一緒に行動
- ・4～5歳になると繁殖が可能になる
- ・3～5月：冬眠明け
- ・5～7月：繁殖期
- ・8～9月：山の中の餌が少なくなるので農業被害が発生しやすい
- ・10～11月：食いだめ
- ・12～3月：冬眠・出産

ヒグマの行動範囲

年間の行動範囲は、オスは数百km²、メスは数十km²です。新たな場所へ出没します。メスはオスに比べて行動範囲が狭く、メスが出没した場合はその周辺(数十km²内)で一年中生息していることとなります。



ヒグマの食べ物

ヒグマは雑食性です。大きな体を維持するために、春から秋にかけてその時に最も手に入りやすい食べ物を大量に食べます。

春

冬眠明けで、ザゼンソウ、フキやセリ科などの植物を食べます。またこの時期は冬を越せずに自然死するシカが多く、その死体を探して食べます。シカがよくいる場所はヒグマがいる可能性が高いです。

夏

引き続きセリ科などの植物を食べますが、アリやザリガニなども食べます。野生のさくらの実やヤマグワなども食べます。アリを食べに開けた草原、道路脇、登山道沿いのアリの巣が密集している場所に出没します。

冬

冬眠をし、完全な絶食状態になります。活動していたときに比べて体温が約4度下がり心拍数も4分の1以下になります。

クルミやどんぐりを中心に食べて冬眠に向けた栄養の貯蓄をします。川にサケマスが遡上してくるので、それを狙って河口付近や下流地域によく現れます。魚を追うことに集中するクマは周囲に気を向けられません。

ヒグマの行動習性

- ・夜間のほか、日中も行動する
- ・人を避けて、藪などに隠れて行動することが多い。
- ・逃げるものを追いかける。時速 50 kmぐらいで走ることができる。
- ・視力より臭覚がすぐれている。
例：ヒグマが二本足で立っている時は周囲の匂いや音を感じて周りの状況を確認しようとしているといわれている。
- ・学習能力が高い
例：味を覚えると、その食べ物に執着します。とうきびや果樹、人の出す生ゴミなどの味を覚えると繰り返し出没します。
- ・土をかけて占有する。シカなど一度に食べきれない餌は、土をかけて自分のものとして占有する。

ヒグマに出会わないために

人がいることをクマに知らせる！

人とクマが互いに気付かないまま近い距離で出会った場合、クマは驚いて自分の身(または子グマ)を守るために攻撃する場合があります。一般的にヒグマは人の存在に気付くと人を避ける事が多いので、距離的に余裕があるうちに音や声を出して人の存在を知らせましょう。鈴、ラジオは人の存在を知らせる有効なアイテムですが、周囲の音を聞き取りにくくするものでもあります。音を鳴らすと同じくらい、周辺の音や気配を感じ取れるよう気を付けてください。

互いに気付きづらい状況では常に周囲に気を配る！

- ・見通しの悪い林内
- ・ササ地などの草藪
- ・霧や日暮れの時間帯
- ・夜間や早朝
- ・沢浴い
- ・風の強い日
- ・雨の日

人もクマもお互いを視認しづらい！

ヒグマを引き寄せない！

ヒグマが人の食べ物の味を覚えて餌付いてしまうと再びその食べ物を手に入れようと人間の活動するエリアに何度も近づこうになります。

ゴミを捨てたり食べ物を野外に放置しない！

クマを発見してしまったら・・・

クマは臆病な動物です。人を発見したからといっていきなり襲い掛かるわけではありません。何もしなければ離れていくことがほとんどです。常に周りを警戒し、たとえ近くにいたとしてもゆっくり離れていきましょう。クマの習性として逃げるものを見つけると追いかける性質があります。急がずゆっくりと背を向けずに車内や屋内に避難しましょう。

みんなのギラリ



みなさんの作品も飾ってみませんか？
職員にお気軽にお声かけ下さい☆